

令和6年度第2回総合計画策定審議会 要旨 (委員意見部分)

日時：令和6年7月23日

14時から

場所：三木市役所 大会議室

(委員)

- ・三木市はSDGs未来都市となったこともあり、SDGsを重視していると思う。そのなかでSDGsは市民の方がどれだけ理解しているかといった基本的なところが難しいと思う。しかし、一つ一つ見ていくと、もう既に行っていることが多い。市民の方々にSDGsをどのように周知するのかを考えると、家庭でできるような身近なSDGsをお知らせしていくとよいのではないかと思う。「こんなことがSDGsだったのか」と知っていただいて、そして三木市がSDGsを進めているなら、協力しようというように持っていくとよいと思う。

(会長)

- ・SDGsについて、参画する市民の視点で何ができるのか、このような形で市民の日常生活でSDGsに参加できますという部分が新しい視点として必要だと考える。

(委員)

- ・商工業、吉川地区の農業について、重点的に施策をお願いしたい。赤字で訂正しているところは、この通り良いのではないか。商工会としては、人材不足が一番困っている。隣の町に新しい企業ができると、そちらのほうが時給は高いという理由で、行ってしまいうことがよくある。現在の職場の課題を聞くと、人材不足、次に農業関係の後継者がいないことがあげられる。将来、自分たちがどうなっているかわからないという方が多いと思う。子どもが帰ってこないなどの意見をたくさん聞く。市として、5年後10年後をしっかりと考えて欲しい。

(会長)

- ・人材不足は、人の取り合いのようになるため、難しい問題である。今、参画していただいているのは総合計画策定審議会であるが、もう一つ、創生

計画というのがある。総合計画は、全方位的に満遍なく本来やらなければいけないことを記載している。創生計画は戦略的に作っている。総合計画が優劣や強弱などが全くないと感じている委員の方もおられると思う。なぜなら、将来に向けてやらなければいけないことを、もれなく記載することが総合計画の一番重要なポイントであるからだ。そのような観点で、それぞれのお立場からのご意見をいただきたい。

(委員)

- ・教育や子育て支援の分野を専門としているため、その視点でお話したい。大きく分けて4点ある。
- ・1点目は、少子化に関して、少子化問題を解決していく中で、企業から、働き方改革や育児休業の取得をはじめ、適切な労働時間等の記載がある。経済が厳しい中で大変だと思うが、具体的な目標設定があった方が良いのではないか。
- ・2点目は、「将来あるべき姿」で、「こどもまんなか社会」の実現と子育て支援政策の実施にあたり、子どもの権利尊重、意見表明の機会の確保が未来のあるべき姿として書かれているが、これに向けた具体的な取組が見えないと感じた。
- ・3点目は、46ページに幼保一体化計画の推進が挙げられている。現状と課題に「保育ニーズに見合う受け入れ体制」が書かれているが、このようなことと直接関係するのかが気になった。タイトルと内容が合っていないように感じた。
- ・4点目は、49ページの現状と課題に、「特別支援教育について進めています」と記載しているが、国の政策から考えると、インクルーシブが求められている中で、若干弱いのではないかという印象を受けた。66ページに、児童発達支援センターを設置するという取組で保障していくのかと思ったが、この辺の書きぶりが弱いと思った。

(委員)

- ・公共交通について。JR加古川線は西脇市駅から谷川駅間で、廃線が検討されている。人口減少する中で利用者が減っていくことは、避けられないことである。廃線するとなれば皆さん反対される。ただ、利用しているかと言えば、車の方が便利であり、利用していないというのが正直なところである。利用率が上がらない中で、各市町の行政機関は補助金などを支援

しているが、地域の方々が積極的に利用する方向に持っていかなければ、難しいのではないかと思う。6月30日に地域の3団体の方々がJRの維持利用促進の地域協議会を立ち上げた。これは、行政主導ではなく、地域の自治会の方が主導で立ち上げている。来年、万博を迎える中で集客の取組を進めた上で、その結果を踏まえ、再度、今後の方向性を検討される。三木市でも、神戸電鉄粟生線の利用客が少ないため存続が厳しいと言われているが、行政だけの取組では難しいため、ぜひ地域の方々や自治会の方々は力を入れていただき、利用の気運を高めていただけるようにする必要があります。公共交通の分野について、市民に進めていただくことは、参画というよりも、もっと積極的に取り組んでいただきたいと感じる。

(委員)

- ・1点目、令和4年度に出されていた「未来を作る学力育成三木モデル」の教育方針を掲げていたリーフレット、あわせて今年度の三木市の教育の基本方針を拝見した。今後、三木市の小学・中学の教育は、小中一貫校を教育のベースにして教育の特徴を作っていくと見させていただいた。9年間を、基礎定着期・充実期・発展期の3期に分けていた。どのような形で、この政策の中に生かしていくのか。吉川地区を始めとして、小中一貫校を切り口に進められている。いずれは、児童生徒の減少に伴い、全てが小中一貫校を目指す三木市は考えているのか。
- ・「三木市の豊かな地域資源を活用し、家庭や地域と連携した体験的な学びを利用する」という表現がたくさん出てきた。これを利用するために、どのように取り組んでいくかが見えたら良い。コミュニティ・スクールを導入されているが、どの程度、浸透しているのか。また、放課後の個人学習、「ひょうごがんばりタイム」は、どの程度、充実しているか。そのためには、人材確保のための予算や方策も考えていかなければならない。
- ・課題として、不登校生徒の記載があった。その対応として、人材的な補充をしており、対策指導員を募集していた。それらの人を活用しながら考えられていると思う。実際、中学校を見てきたが、中学生に不登校生徒がかなり増えてきているのが現状である。当然、小学生も増加していると思う。そのような生徒にどう対応していくか。カウンセラーやソーシャルワーカーなどの配置は、どこも行っていることである。また、外部のフリースクールや他の連携などはあるかどうか、そのあたりも聞かせていただきたい。
- ・最後に、学習教材活用材料として、デジタル教科書もかなり出てきてい

た。ICT化の活用についても、先行実施で、おそらく学習者用のデジタル教科書を英語と、算数・数学を使用していると思うが、取組状況、職員のスキルアップのための研修会を、どのように行っているのか。教材について、どのように使用しているか気になった。市販の教科書会社以外で何か考えられることもあるのか、生徒に任せて、生徒自身が自ら学習していく体制を作ろうと思えば、それに見合うものがなければ、なかなか使用できないため、教科書付属のデジタルドリルであれば、難しいのではないかと思う。そのあたりの検証も含めて必要ではないかと思う。

(教育振興部長)

- ・ 1点目、小中一貫校について、吉川地区に第一校目となる施設一体型の小中一貫校を建てる方針を市で決めているため、現在準備をしている。4年前は全市で5校ほど設置したいという方向性も出していたが、一昨年の有識者による協議会を開き、まずは1校をモデル校として吉川に建設し、そのプロセスや教育内容を見ながら、今後市内でどうしていくかを検討するというのが今の方向性である。
- ・ 2点目、コミュニティ・スクールについて。地域や家庭と協力して、令和5年度から3年間で全ての中学校に導入していく。その中で、吉川地区と別所地区は、小学校と中学校が1校ずつのみであるため、小中合同型を作る。令和7年の段階で、全ての中学校と2校の小学校にコミュニティ・スクールが導入される。国の流れから言うと、全ての小学校に作る取組を目指しており、検討していきたい。「ひょうごがんばりタイム」は、放課後に教員のOB、地域の方、学生の方にお手伝いいただき、補充学習をしている。県の事業でもあり、全ての小学校で行っている。
- ・ 不登校児童生徒について、現在主に進めているのは、校内支援教室として、教室になかなか行きにくい子どもたちが、自分のペースで学べるような教室を設けことである。できるだけ多くの学校に作っていきたいと考えており、中学校については、全ての学校にある。特に、中学校6校のうち3校については、子どもたちをコーディネートするための人材を配置している。人員配置は、状況を見ながら増やしていきたい。フリースクールについては、市内のフリースクールは1校のみである。これから増えていくという情報も入っているが、フリースクールに行っている子どもたちを学校とフリースクールがどのように連携し、子どもたちが社会的に自立するためどうサポートしていけばいいのか検討している。フリースクールに行ってい

ても、学校を出席扱いにしてほしいという希望がある。その際、学校の職員が、フリースクールに行き、その子がどんな学びをしているのかを確認した上で出席扱いするかどうかを決定する。

- ・最後に、指導者用デジタル教科書は、全ての教科が入っていて、教員が自分のコンピュータをスクリーンなどに映し出しながら指導している。教科書は、国が法令で全ての子どもに無償で与えているため、紙の教科書は児童生徒全員が持っている。国の実証実験で、英語のデジタル教科書は、3年前から小学校5年生以上中学3年生までの全ての子どもに導入されている。従って、その部分は紙の教科書とデジタル両方があり、どちらをどのような使い方をしたらいいのか、検証しているところである。デジタル教科書については、教科書会社が良い使い方を一番知っているため、教員を対象に、こんな使い方ができる、他市町ではこんな使い方をしているなど、使用方法を教えていただいている。次に、教材についてであるが、昨年、実証で多くの業者のドリルを試しに使用してみて、今年度から全ての小中学校で、三木市として一つ選んだAIドリル教材をすべてのタブレットに入れている。自分の学びの記録が全部記録され、苦手な分野から次の問題を提案してくれるなど、自分の進捗度に合わせて取り組めるようになっている。

(委員)

- ・27ページ農業振興を取り巻く変化では、農業振興の課題を赤字で全面的に書き込みをしていただいた。農業振興の新規就農者の問題、さらに革新的な技術なども取り入れられている。特に、国の施策について、SDGsの関連で、みどりの食料システム戦略が、2021年に発表され、2050年までに化学肥料の使用量30%、化学農薬の使用量50%を削減することが、国策として発表されている。これにより、化学農薬の使用量を減らした環境に優しい取組を書き込みしている。それらを踏まえ、資料113ページ、産業振興の産業全体の中で、新規就農者の問題、技術革新の問題、生産資材も様々な課題が出されていると思う。ただ、現状と課題はしっかり記載しているが、チーム三木としての取組が少し弱い。また、三木市の場合は、イオンやコープこうべが大きな農場を持っているなど兵庫県の中には他ではあまりない企業の取組みもある。企業との連携は入っているが、そういったところには、新しい就農者もたくさん働いており、雇用も生まれているため、具体的に農業の強化、食料確保の視点の書

き込みをしても良いのではないか。

(副会長)

- ・農業振興について、社会情勢の変化については、基本計画 1 1 3 ページの現状と課題は書き込んでいただいた。将来のあるべき姿は、この計画は 5 年であるため、5 年後の姿や目標が書いてあり、現状から 5 年後にある姿を達成するために、右側のページのチーム三木の取組があると考えている。この 5 年、具体的にどういうことであれば、この将来のあるべき姿が達成できるのかが見えない。先ほどご指摘のあった、チーム三木の取組が、非常に抽象的で、表現はあっさりしていて、具体的に 5 年後のあるべき姿や目標を達成できるのか、非常に弱いと全般的に感じた。もう少し、具体的に P R するような書き方で、今後 5 年間で達成する目標を記載するほうがいいのではないか。

(会長)

- ・行政においては、リソースの制約などを考えると、1 1 4 ページに具体的に書き込むのは少し勇気がいるのではないか。今から、5 年後どうなるかの見通しを立てるのは非常に難しい。おおよその見通しが立つところについて、もう少し具体的な取組を記載して進めていきたいと思う。

(委員)

- ・三木地区の関係について、三木地区中心市街地再生プロジェクトがある。前回は、ホテルなどを申し上げたが、これに関して総合計画の基本構想のテーマ 3 地域の魅力を高めるまちには、「中心市街地における鉄道駅周辺や市立の施設や公民館を中心とする拠点周辺において、地域の特色を生かしながら、商業施設など立地誘導を図るとともに、産業拠点の強化や地場産業の振興を進めます」と記載がある。また、S D G s 未来都市計画にも、全く同じ内容の記載がある。「高齢化や後継者不足とともに若者の転出への対応として、老若男女を問わない働く場づくりを進め、地域の文化を育んできた農業や商工業を守るとともに、優れた高速道路網を生かし、産業拠点の強化を図る」とあるが、その通りである。そのために、何らかの知恵を出して進めていただけないか。産業を高めること、国指定史跡、つまり三木城跡・付城跡や三木市のまつりを紹介するなど、提案してもあまり響かないので残念である。交流人口の増大や質の高い観光地づくり

の記載がある。三木市に魅力はあるため、工夫をしてほしいということである。三木城跡を中心とした旧市街地あるいは周辺を、景観管理をして、カバーしたりしているが、一つの課ではできることではなく、多くの課が関係して、連携して具体的な政策の中の何か起爆剤を作ることの一つ目指してほしい。ホテル、吊り橋、金物体験館などを作って欲しいと思う。歴史資料館は歩いて上がるのは難しいので、マイクロバスのようなものを上の丸駅の時刻に合わせて運行すれば良いと思う。また、三木市の特色である祭りのミュージアムなどの資料館も一緒にやってほしい。「市が誘導する」と書いてあるが、中央公民館や商工会議所の跡地は三木市のものであるため、そこをうまく、企業が入るようにして欲しい。そうすれば、三木城跡を中心に旧三木市街地がますます発展していくのではないかと思う。地域の活性化に繋がる、そして「誇りを持って暮らせるまち三木」で一つ大きなプロジェクトをしてほしいと思う。

(会長)

- ・この総合計画に、書き込むことは難しいが、ただ、横断的に取り組まなければいけないプロジェクトはあると思う。そのような取り組み方は必要である。

(委員)

- ・75ページの将来のあるべき姿について、マイナンバーカードの記載がある。そもそも、なぜマイナンバーカードが推進されているのか、若年層では疑問である。あまりメリットがわかっていないため、SNSで広めるべきではないか。マイナンバーカードが推進されはじめたときに、Pay Payと連携したらポイントが付与されるとあったが、手続きをしたとき、何度もエラーが出た。エラーに関して、若年層から高齢者までが、簡単に相談できる場所が欲しいと思った。
- ・127ページの現状と課題で、初めてスマートフォン教室が開催されていることを知った。いつどこでやっているのかが分からなかったため、市民の方がわかるように周知してほしい。スマートフォン教室に高校からボランティアを募って実施、またSNSや掲示板でボランティアとして掲載するなどできれば便利になり、参加者も増えるのではないか。
- ・最後に、街灯について。大村駅を利用すると、イオンへ向かう道に街灯がない。以前、外国人がこの道を自転車で通っていて、溝に落ちていた。街

灯の設置についても検討欲しい。

(会長)

- ・マイナンバーカードの取組みについて、周知方法や広報など、どう知らせていくかは重要なポイントである。マイナンバーカードをどう促進するか、若者にどういう利活用が進んでいるかわからないが、SNSは興味のあることのみアクセスするものである。いかに、情報をキャッチしてもらうか。逆に若者にどうやって訴求したらいいか、そのためにどんな工夫ができるかを考える必要がある。

(市民生活部長)

- ・75ページ、マイナンバーカードの保有枚数分の指標・目標値があり、2018年には15%が現状であったのが、5年経ち74.79%、約4人に3人はマイナンバーカードを保有している状況になってきている。マイナンバーカードは、本人を確認するための一つのツールとしてデジタル化を進めていく中で、欠かせない一つのアイテムとなっている。普及のために、国や市の取組で、例えば、国では取得すればPay Payのポイント付与、市では住民票や所得証明書などの行政サービスをマイナンバーカードがあれば市役所に来なくてもコンビニで取得でき、市役所では手数料300円かかるが、コンビニでは150円で取得できるという取組で、普及を図ってきた。様々な方法でマイナンバーカードの普及を図っているが、そもそもマイナンバーカードはなぜ必要なのか、こういった場面で使用することでデジタル化が進み、行政サービスの効率化や社会の経済活動で役に立っているということを、さらに周知啓発していく必要があると考えている。
- ・スマートフォン教室も同じで、そもそもスマートフォンを使って便利に市民サービスを受けていくと考えたとき、まずスマートフォンを使いこなせない方を対象に、スマートフォン教室などを開催してきた。マッチングについて、スマートフォンやSNSを使いこなせている高校生がスマートフォン教室などへ行き、地域の方に対して教えることもできる。そのあたりを行政がうまくマッチングをさせて、デジタル社会に全員が馴染むような仕組みを作っていくような、特定の世代限定のサービスを考えるのではなく、そのサービスを使える方に手伝ってもらい、市民と行政一体となって進めていくことも大切な考え方であると思った。

(委員)

- ・ 90ページの観光資源というところで、私は山田錦の館に勤めており、現状と課題にある「既存の大型施設について、各施設の回遊性が整っていない。」とあり、ぜひこれを確立していただきたい。以前、施設に行くとポイントが貯まるような事業があり、山田錦の館もそのスポットにして欲しいとお願いしたが、遠いと断られたので、ぜひ加えてほしい。指標・目標値について、市内観光施設利用者数だが、2023年の54.4万人で、山田錦の館が入るとこんなに少ないはずがない。山田錦の館と温泉だけでも超えていて、今年度70万人は超えているのではないかと感じた。
- ・ 次に113ページの農業振興について。地元では、スマート農業に取り組もうという動きもあるが、担い手の確保を手厚くしていただけたら嬉しい。

(委員)

- ・ 前回の審議会で申し上げたが、SDGsの観点、17の目標を対応させながら、三木市の総合計画を組み立てていくことは、非常に大事だと思う。世界標準の指標であるため、すこし大きな話もあるが、その物差しが生きてくると思う。ウェディングケーキモデルも提案させていただき、掲載していただいた。17の目標が、このような構造になっていると、市民の方に理解してもらえたらと思う。その上で、他の委員が言うように、普段の生活でできていることもたくさんあると考えると、自分たちが主体で、これからSDGsの取り組みへの参画意識を持っていただけたらと思う。少し残念なことは、目標の字が見えづらくなっている。前回総合計画であれば、非常に見やすいものであった。また、三木市はSDGs未来都市に指定をされている。一般市民、企業、団体が取り組まざるを得ない仕組みを、市で企画していただけたら、市民も取り組みやすいのではないかと思う。神戸電鉄に乗車したとき、「こうべSDGs市民債」の広告を見た。現在の市民が現在の環境を良くしようと、税金を使ってしまうのではなく、将来にわたって環境を良くしていこうという仕組みである。三木市のSDGs市民債というのは作れるかわからないが良い仕組みだと思う。
- ・ ユニバーサルデザインについて、非常に良く書かれていた。ユニバーサルデザインという考え方は物事を進めていく上で大事だと思うが、誰一人取り残さないということに繋がるが、困難を抱えている人たちが、暮らし

やすい、誰にとっても暮らしやすい三木市になる。満遍なく、焦点をあてて取り組んでいただきたいと思います。

(委員)

- ・ 社会保障について、市役所が進めることの中に、「住み慣れた地域で安心してその人らしい生活」とあるが、資料を見ると、「住み慣れた地域で安心して自立した生活」から「住み慣れた地域で安心してその人らしい生活」という言葉に変わっている。すごく良い言葉だと思う。自分らしい生活を住み慣れた地域でやっていくことが大事だと思う。
- ・ 将来のあるべき姿として、「だれもが」という言葉がある。「だれもが」という言葉は、「市民の方がどこに住んでいても」という意味を含んだ言葉として、生活支援サービスは誰でもどこにすんでいても受けられるようにお願いしたい。

(委員)

- ・ 総合計画に対しての意見はあまりない。前回申し上げたように、具体性に欠けるような内容になっていると感じるが、加えてそのチーム三木の取組、市民、企業団体に進めていただくことはお願いベースになってしまう。それぞれの視点で、具体的な事業、こんなことをしたらもっとよくなる、という考え方は必要であると思っている。
- ・ 具体的に考えている案を上げると、ホテルは誘致すべきだと考えていて、ゴルフに特化したリゾートホテルにし、星野リゾートと連携して作る。そこに、市内25ヶ所あるゴルフ場やプロのゴルファーに対して、訪問をし、資金調達して、ホテルへの宿泊などに向けていく。ある程度、マネタイズすることも可能であると思う。三木市が抱えている課題を解決できるのではないかと考えて、交流人口を増やしていければ良いと考えている。

(委員)

- ・ 高齢者の立場で、1人暮らしの方が多くなっている。買い物の行き帰りの途中で何回も休んでいることが現状である。デマンド型交通について、市が力を入れて進めていただいている。このようなことを、5年10年と継続してさらに素晴らしいシステムとして継続的に考えていただきたいと思います。自主的に免許証の返納が推奨されており、高齢者はこれから増えていく

ため、地域の皆さんも行政も末永くバックアップしていただきたい。

(委員)

- ・子どもを集めて、調理実習を行っているが、少子化により段々と子どもが少なくなっている。就学前の子どもたちが少し参加していただけるような状況である。材料費が高騰している。市から補助金等の支援、協力をお願いしたい。

(委員)

- ・71ページ、市民協働について、市民に進めていただくことが記載されているが、なぜこれ以上やらないといけないのか。各地域で夏祭りの準備を毎日実施している。青年会や公民館でのいろいろな行事がある中で、これ以上、何を求めているのか。市民協働の在り方について考えてほしい。
- ・指標・目標値について、アンケートの結果で良いのか疑問である。指標の在り方について考えてほしい。
- ・87ページ、共生社会について、外国人住民が約2,500人暮らしている、と記載があるが、市はどのくらいの人を知っているのか。外国人と自治会が一緒になってやるためには、外国人が自治会に加入するようにしてほしい。
- ・95ページ、住環境について、空き家問題である。一つの施策として、空き家バンクの活用方法をもっと検討して欲しい。人口減少を食い止める活用方法もあると思うのでぜひ検討して欲しい。
- ・113ページ、産業振興について。「ひょうご情報公園都市の整備に向けて兵庫県と検討、協議を進めます」とあるが、これでいいのか。どんな企業を誘致しようと思っているのか。もう一つは、雇用、ハローワークについて、もっと情報を入手して、市民が求めることに答えられる仕組みを作って欲しい。
- ・121ページ、「地域の魅力を高めるまち」について。SNS等での情報発信力の向上をもっと行ってほしい。吉川は車では大阪まで1時間と近く、大阪方面に向けて、市が発信をして欲しい。
- ・城下町について、まちづくりの青写真を作成して欲しい。

(委員)

- ・49ページのユニバーサルデザインについて。現状と課題の中の「ユニバ

ーサルな授業づくり」と書かれているが、教育委員として活動させていただいている中で、教育大綱の見直し、それに伴う令和6年度三木市教育基本方針の中で、特別支援教育の考え方の一つとして、「ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり」という文言が出てくる。整合性を図って、同じような書きぶりに修正していただきたい。

- ・中期にあたり、書き直しや追記などを考える際、具体的な事象が必要ではないかという意見があった。逆に、具体的な政策も必要であるが、総合計画に記載する必要があるのかという点も検討すべきである。総合計画は、市の政策の羅針盤である。具体的な取組を記載することについては検討をお願いしたい。
- ・54ページ、青少年育成について、市民や地域との繋がりが必要の視点から、コミュニティ・スクールの導入推進が追記された。基本方針の中に描かれているもう一つ政策として、部活動の地域移行がある。全国的に少子化に伴い、子どもたちは団体競技が一つの学校でチームとして、編成されていくことが難しくなっている。そして、教師の働き方改革の観点から、見直しが進められており、三木市でも、人材の確保や、どうすれば子どもたちがこれからも持続可能な形でスポーツや文化に触れられる活動ができるかどうか、検討を進めている。これから5年先10年先、地域の方々とともに、社会教育の一環としての側面も加味しながら、進めていきたい。コミュニティ・スクールの導入推進と同時に、部活動の地域移行も追記していただきたい。
- ・5年前に作成した、将来あるべき姿や現状と課題に対して、チーム三木の取組が、中期にあたり、整合性があるのかどうか。それぞれ全般的に再度、確認いただきたい。学校教育に限らず、書き込めるところを書き込んで、書きすぎないようにしてほしい。

(委員)

- ・27ページ農業関係について。今後の方向性と関連して、環境への視点が抜けているため、追記して欲しい。農業振興を取り巻く変化の、「その基盤としての農業施設の維持」とあるが、大事なものは、人と農地である。もう少し文言を整理していただきたい。それを踏まえて、113ページ農業振興の人員・人材の問題で、新規就農者や担い手の確保と、大規模農家について記載がある。国の方針として、大規模農家に農地を集約し、農業経営を安定させる方向で、今回の基本法の中でも、昨年から法律に基づいた

地域計画を作っている。これらは、将来の方向性として正しく、大規模農家や新たな担い手も重要であるが、大きな農地は北海道や東北地方に8、9割が集約されている。三木市では兼業農家の割合が8割ほどになる。つまり大規模農家やその新規就農者や担い手だけで農地を守ることは、兵庫県や三木市では難しいと思う。下位の計画になるのかもしれないが、大規模農家以外の位置づけを考えてみてほしい。

- ・ 33ページ、指標・目標値に農業振興に対する重要度とあるが、他では、満足度となっている。重要度で評価してどうするのか。農業の場合は、重要度は高いが、満足度は低い。ぜひ、検討をお願いしたい。
- ・ 124ページ地域計画について。「農村集落と農地を保全するため、地域計画の策定を進めます」とある。これは進める必要があるが、ただ単に、「策定を進めます」ではなく、可能であれば、計画の中で示された課題の解決などを示し、「継続的にサポートします」など、市としての方向性もあわせて記載した方が良い。また、掲載場所について、「景観・自然」に入っているが、113ページの「産業振興」が良い。
- ・ 30ページ土地利用について、市街化調整区域の土地利用計画の見直しについて131ページの都市整備に掲載されているかと思ったが、掲載がない。市街化調整区域は、地域にとって非常に大きな影響のある問題である。具体的な取り組みで記載できる内容があれば、書き込みがあった方が良い。

(副会長)

- ・ 今の農業関係の話はまさにその通りである。特に、農業の書きぶりは、改正法で示された4つの柱が基本であるため、しっかり書いていただきたい。また、目標値が重要度であるのは、おかしいと思う。
- ・ 左側に現状と課題があり、将来のあるべき姿が目標である。それに対して、右側のチームみきの取組が、抽象的である。もう少し具体的に書いていただきたい。
- ・ 関西国際大学の学生と高校生が行う若者ミーティングの議論を、総合計画に反映させることになっていると認識している。市制施行70周年の記念式典の第二部で発表していたが、その内容がどこに反映されているのか教えていただきたい。若者の意見がここに盛り込まれているということを学生にフィードバックをしてあげたい。若者の意見が、市の総合計画の中にも盛り込まれることを教えてあげれば、若者ミーティングに参加

しなかった学生たちも市の政策、行政に関心を持ってくれると思う。

(総合政策部長)

- ・若者ミーティングについて、市内の高校生・大学生を中心に多くの若者に参加していただいた。市制施行70周年記念式典の第2部で発表していただき、テーマを絞り、三大地域資源を活用したまちの活性化をテーマに議論をした。若者ミーティングの議論について、総合計画に反映するという話があったかどうか、再度確認をさせていただきたい。また、3大地域資源である、金物、山田錦、ゴルフの地域資源を活用するまちづくりは、非常に大事になってくる。若者ミーティングで高校生や大学生に議論していただいた内容は、今後の政策に反映させていただけるものと確信をしている。

(委員)

- ・城下町について、三木城下町まちづくり協議会のボランティアをしていて、城下町で再生できないような形になることが非常に寂しいので、常に現状がどうなっているのか市としても情報収集をして把握をお願いしたい。